

□【ここまで進んだ鋼床版の疲労対策】において

Q1) 架設用吊金具の検討について質問いたします。損傷事例として挙げられている首都高さんの事務連絡に示される事例と、実験で再現されたき裂とは出方が異なっているように見受けられましたが、その原因について分かっていることがあれば、教えてください。また関連して、今回提案されている疲労対策について、このような実橋のタイプのようなき裂に対しても有効であるのかどうかを教えてください。

回答)

平成 16 年に出された首都高さんの事務連絡では、吊金具に対して直角方向にき裂が発生しています。今回我々が検証したものでは、溶接止端部に沿って発生したき裂であり、確かにタイプが異なります。首都高さんの事例では、どのような吊金具であったか、またどのような荷重状態であったかは分かりませんが、我々が提案した対策というのは有効であると考えています。

□【イズミット橋の工事報告】において

Q2) 吊橋の主塔を施工する場合、その鉛直度に厳しい要求があると思います。主塔基礎のケーソンは砕石上に設置されているとお話がありましたが、ケーソン設置の水平度が後々の主塔の鉛直度に影響を与えenと思います。ケーソン設置の水平精度はどのようにして確保したのでしょうか。

それと、ケーソン設置後の主塔基部の架設時に何か工夫したこと、注意したことがあれば教えてください。

回答) 主塔の鉛直精度には 1/2500 が要求しています。

この数値を確保するために各段階で要求精度があり、それを確認しながら施工を進めています。

主塔基部を設置する際に高さ・水平を調整し、下面にグラウトを施工して精度を確保しています。

下から順番に許容値を確保し、主塔基礎の段階で水平度を保ち、その上に 1/2500 の精度の主塔の傾斜を確保しています。

Q3) 本工事には直接関係はないですが、工事期間中にトルコでテロがあったように記憶しているのですが、その影響は本工事では何かあったのでしょうか？

回答) 日本で報道されていたようなテロはイスタンブールやアンカラなどの大都市で起こっていましたが、イズミットがある場所やこの近辺ではそのような大規模なものは起こっていません。

ただし、このような大規模構造物を建設しているので、テロの標的とされる可能性があるため、現場では工事範囲を鉄柵で囲ったり、ガードマンを雇って侵入者が入れないような対応をしていました。

直接的に工事に影響を与えるようなことは全くなかったと思います。